

まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会質問対応表（第2回）

資料－8

令和5年2月8日現在

No.	意見区分 (審議会)	意見対応事項			対応（回答）
		対応 頁	対応 行	意見内容	
1	第2回 審議会	P34	3行	<p>町民アンケートにおいて「公園や緑地の保全・充実」が挙げられている。</p> <p>南風原町民は、交通アクセスのよい立地で暮らしているが、人口に対する県内市民マラソンの参加率が低く、大人のスポーツ体験の低さが推測される。</p> <p>大人の運動習慣が低いと、その子供が成人後に同じ傾向となり、生活習慣病の住民増で自治体側の医療費負担増が懸念される。</p> <p>沖縄県内の年代別20代の市民マラソン参加率は全国一で20%を超えており、NAHAマラソンは3割弱が20代が占めている（本土は10%台）これは、制限時間のゆるい市民マラソンが多く、幼少時から親子で参加する機会提供があったからと言われている。公園や緑地の活用は、遊具設置に偏る傾向があるが、南風原町に定住し、運動継続率を高める・景観・治安の向上をはかるなら、子どもが運動する機会を増やす、運動したくなるインフラ整備は必要と考えるが、今後どのように考えているか。</p>	<p>子どもの運動機会及びそのインフラ整備についてのご質問ですが、幼い頃に体を動かした経験は運動能力や知的発達にも効果があると言われていています。南風原町は、自治会の公園や都市公園の遊具が充実しており、幼児期の頃から遊びを通して運動が出来る環境が整っていると考えています。</p> <p>また、幼稚園では運動指導員を派遣して「体育遊び」を実施し、運動の楽しさ、鉄棒や跳び箱を習得し自己肯定感を育てています。体育の日は「自分の体力を知り運動を始めるきっかけになれば」と、体力テストを実施しています。1月の第2日曜日に南風原町新春マラソンで、約300名あまりの町民が参加しています。</p> <p>また、施設整備においては、関係部局、自治会や関係団体と調整を行っております。現在整備中の津嘉山公園においては、地元と調整を行い、パークゴルフ場や多目的広場を整備中です。</p> <p>今後も町民ニーズを把握し、充実した施設整備及びスポーツ振興を進めてまいります。</p>

2	第2回 審議会	P34	3行	<p>国が公募している田園都市国家構想推進交付金の活用についてはどのような運用を検討または実施計画を予定しているか。</p>	<p>デジタル田園都市国家構想交付金は、既存の3つの交付金（①地方創生推進交付金、②地方創生拠点整備交付金、③デジタル田園都市国家構想推進交付金）を一本化し、新たに創設された交付金となります。</p> <p>デジタル田園都市国家構想交付金の活用については国からの情報に注視し、先進自治体も参考に各施策の実施において検討していきます。</p> <p>また、令和5年度新規事業として、地方創生汚水処理施設整備事業交付金で下水道事業を行う予定ですが、こちらから次年度からデジタル田園都市国家構想交付金に移行される予定となっております。</p>
3	第2回 審議会	P52 ・ 資料3 P14	14行 ～ 20行	<p>基本目標2（2）生きる力を育む教育課環境の充実②について質問する。</p> <p>IT化導入のシステム利用や開発費に予算をかけるが、IT活用のリテラシー（知識や能力を活用する力）までIT事業者に対して導入時に仕様書にどの程度反映させているか。</p> <p>これはIT難民の高齢者にも言える事だが、使い方や活用方法まで教育していかないと、デジタル化は進まないと考えているが、今後どのような取り組みを考えているか。</p> <p>住民が「自分ごと」として協働の精神でデジタル化を納得して行動変容を促す取り組みを考えているか。</p>	<p>システム導入時のIT活用リテラシーについて、職員へのシステム操作研修や操作マニュアルの提出を仕様書に反映させております。</p> <p>また、町立小中学校においても、ICT機器の基本的な操作研修を導入業者が行えるよう仕様書に反映させております。</p> <p>さらにICT支援員を配置し、学校で有効に活用できるよう先生方や子ども達をサポートしております。</p> <p>また、総務省デジタル活用支援推進事業で携帯ショップによるスマホ講座等のデジタルデバインド対策を参考に、公民館講座や自治公民館出前講座において携帯キャリアショップからの講師派遣等の取り組みを検討しております。</p>

4	第2回 審議会	P55	23行	<p>「公共交通の整備検討事業」について、「高齢者や免許返納などによる交通弱者の増加が想定され…」とありますが、交通弱者の人数または高齢者のうち、交通弱者の割合がどのくらい分かるか。また、どの程度増加を考えているか。</p>	<p>交通弱者の割合については把握しておりませんが、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると本町の高齢化率は令和2年時点、20.0%から、令和22年までに25.1%に推移し、町民の4分の1が高齢者となることが推計されます。</p> <p>しかし、公共交通カバー率は町全域で37.3%と低く、今後、公共交通のカバー率を高め、移動し易い交通環境を整えていく方針です。</p>
5	第2回 審議会	P55	24行	<p>「公共交通の整備検討事業」について、「支線公共交通システムの導入の検討を行い、公共交通が利用しやすい環境整備を図ります。」とありますが、支線公共交通システムの事例はあるか。どこまでの要望に応える予定でしょうか。（例えば、「家の前まで」「近くの道路まで」「スーパーや病院など大きなポイントだけ」などのように要望の範囲はどうか）</p>	<p>支線公共交通の事例として、他市町村ではコミュニティバス、デマンド交通等が導入されています。</p> <p>南風原町交通基本計画の基本方針では、将来公共交通ネットワークとして、交通結節点を結ぶ支線公共交通の方針を示しています。今後、新しい公共交通のシステム導入の検討については、国、県を含め周辺市町の動向や本町の規模、将来需要等を考慮し慎重に検討していく方針です。</p>
6	第2回 審議会	全体	-	<p>会議での資料の読み合わせする時間は、デジタル化の視点で鑑みると省略してよい運用ではないか。資料も事前に配布をなされているので、議論の場にする時間を多く確保してはどうか。概要版、詳細版と丁寧に、わかりやすく、その他資料含めて作成していただき、今後南風原町がどのような取り組みをしていくか理解できたし、そのための労力をかけていることも伝わってきた。</p> <p>せっかく審議会委員に任命されているので、それぞれの知見を活かした貢献をしたいと考えており、質疑応答時間が短いのは、もったいないのではないか。</p> <p>会議の進め方として、事務方の心理的安全性を保つため、委員の意見や提案は、批判で終わらないよう、必</p>	<p>会議の進め方については、資料や説明方法等も含め、有意義な会議となるよう検討してまいります。</p> <p>また、会議については、固定概念や専門的な知識にとらわれず、委員が感じた自由な意見を発言していただき、寄せられた意見を整理し、今後の施策に生かしていきたいと考えております。</p> <p>また、町職員のワークバランスについてですが、班または課において、一時的に業務が集中した場合は、可能な範囲で業務を割り振り、業務負担の改善に努めています。また、新型コ</p>

			<p>ず「改善案」をふまえた発言ルールにし、委員ひとりひとりが当事者意識をもって会議に臨む体制づくりに改善してはどうか。座長・副座長に確認をお願いしたい。</p> <p>また、管理職の皆さんが、事務方の業務負担やワークバランスの改善をどのように考えているか伺いたい。</p>	<p>コロナウイルス感染症対策にかかる関係事業の対応についても、一担当課での対応が難しい場合は、部内又は庁内で調整し、職員を配置して対応しています。</p> <p>令和5年度から機構改革（組織再編・事務分掌の見直し等）による組織強化を行い、行政サービスの向上及び職員の事務負担改善に努めてまいります。</p>